

ピンチヒッター・今井の中国通信

日中交流会速報！！

お世話になります。

去る、11月12日に福建省石材業日中交流会が惠安で開催されました。

中国側28名と日本側12名が参加！



中国側からは、現状報告と改善提案と言う方の文章で意見が提出されています。内容を簡単にまとめますと、

1. 生産・経営状況について

福建省の日本向け墓石関連工場は、**2016年10月 205軒**で

したが、**2017年10月現在151軒**となり約26%の工場が閉鎖もしくは、国内向けに変更しているとの報告。

2. 経営上の問題点について

a. 丁場の閉鎖、原料の高騰の問題。 中国政府は、環境規制を強化しています。沿岸地域の丁場は採掘許可が下りないため、どんどん閉鎖されています。

閉鎖された主な丁場

AG-98・G623・G603・G614・G654等

※潤沢な在庫と盗掘で大騒ぎになっていない丁場も有りますが…

しかし、**丁場が停止すると一般的には自動的に売り手市場になり、それにより値上がりが始まっている石種もあります。**

b. 従業員の福利厚生の問題。 中国労働局の取り締まりが強化されています。社会保険の強制加入等、従業員一人当たり年間で約10万円の支払い義務が発生し、中規模工場で約100名の社員がいるとすると、年間1,000万円の出費増になってきています。

c. 人材確保の問題。 以前、墓石業界の給料は、他の職業よりも高かったので人材は集まりましたが、現在は人件費も上げることができないので、新しい人材が入らない業界になっています。工員も40代、50代が大半になって来ており、深刻な後継問題が出てきています。15年前までは、中学生位の子供が働いていましたが、工場は現在急激な高齢化に悩まされています。

d.環境改善問題。騒音対策、粉塵処理、固体廃物処理など石材業界の環境改善問題に関して、政府側から強い指導があり、工場一軒当たり 約1,700万円程度の出費が必要になってきています。

まだありますが、それにより 墓石輸出価格15%の値上げの提案…、という答申につながっているようです。

近年の会議ではいつも“値上げ”の提案が出ていますが、蓋を開けたら足並み揃わずという流れが常態化していましたが、11月12日の会議を受けて、下部組織の恵安県石材組合でも11月30日に会議が開かれ1月1日から10%~15%の値上げの話で一同合意されたそうです。



今後は、人民元高(対ドルレート)+人件費+原石+工場の維持費などのコストアップによる単価を上げるベクトルと、注文が欲しいので他社より少しでも安く出すベクトルの引っ張り合いが想定されます。今後の流れがどの位単価に反映されるか、私たちも注目していきます。

2017/12/01 今井